

氏名	藤 田 甫
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 3 5 0 号
学位授与の日付	昭和44年 3 月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)
学位論文題目	アデノウイルス12型感染組織並びに腫瘍の移植実験 I アデノウイルス12型感染組織の移植実験—ウイルス による標的細胞の癌化の時期について II ハムスターに於けるアデノウイルス12型誘発腫瘍の 累代移植実験
論文審査委員	教授 小川 勝 士 教授 矢 部 芳 郎 教授 妹尾左知丸

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

I 著者は、アデノウイルス12型 (A V12) を新生仔ハムスターの腹腔内に接種した後、経時的に腹腔軟部組織を取り出し、これを幼若ハムスターの皮下に接種することにより、A V12感染後、標的細胞に起こる不可逆性癌性変化の最も早い時期を知ろうと企図した。その結果、ウイルスを接種して6時間以後の新生仔ハムスターの組織が移植腫瘍として発育可能であることを認めた。対照実験として、同力価のA V12を幼若ハムスター10匹の皮下に接種したが、46～367日の観察で腫瘍を生じたものはなかった。以上の結果より、A V12が新生仔ハムスターの腹腔に接種された場合、このウイルスに感受性をもつ細胞には、少なくとも6時間以内に癌性変化が完成されていることが推定された。

II 更に著者は、A V12を新生仔ハムスターの腹腔に接種して生じた腫瘍を同種ハムスターの腹腔内及び皮下に25代異代移植を続け、高率に移植可能であることを認めた。移植腫瘍の組織像は、25代に至るまで原発腫瘍のそれと全く同一であり、腫瘍継代の過程に於いて、腫瘍細胞には成熟、分化、或は細胞構成の単調化などを認めなかった。

論文審査の結果の要旨

本研究はアデノウイルス12型を新生仔動物の腹腔に接種後、感染腹腔組織を経時的に同種幼若動物に移植することにより、標的細胞には感染6時間迄に不可逆性癌代機転が完了していることを明白にし、又腫瘍の移植継代実験を通じて腫瘍細胞の分化形態に変化が起こるか否かを検討したものであるが、ウイルス性腫瘍の発癌現象とin vivoに於ける細胞淘汰の解析に重要な知見を加えたものとして価値ある業績であると認める。

よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。